

C-2. あれ なーい！ なかの保育園（島根県出雲市）

[1歳児]

1歳児はゆったりとした雰囲気の中での“ふれあい”をもつことで保育者との信頼関係をつくり、安心して過ごしている。保育者にあたたく受け入れられる中で、好きな遊びを楽しんだり、五感を通して遊ぶことによって、子どもが「たのしい」「やってみたい」と感じ、そこに好奇心が芽生えていくのではないかと思う。それには、保育者による環境の構成が大切だと感じている。

生活面においても、少しずつ自分でやってみようとする姿が見られる。自分でやりたい気持ちを大切に、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、さまざまな体験を通して豊かな心を育てていきたい。

0歳児 ・保育者との信頼関係の中で安心して過ごし、見る、聞く、触るなどの五感を通して遊ぶ。



1歳児 ・身の回りのいろいろなものに触れて遊び、好奇心をもつ。
・全身や手指を使った遊びを楽しみ、身近な生き物や自然に親しみをもつ。

わ～水がなくなった

A児（1歳8ヶ月）

カップで水をすくい、ジャーツとこぼすことが大好きで、毎日同じ遊びを楽しんでいる。

土に水が染み込んでいく様子をじっと見つめている。

A児：「あれ、なーい？」

保：「あ、水がなくなったね」

A児：染み込んだところを指差しながら、じーっと保育者の顔を見る。

保：「あ、またなくなったね」

A児：「なくなった」

A児：嬉しそうな表情で保育者の顔を見ながら、何度も繰り返す。

子どもの
気持ち

保育者の
気づき

おもしろい！！

好奇心

好奇心の芽生えではないだろうか！？

共感することで、より興味を持ったのではないか

もう一回やってみよう！

意欲

大切にしていること

○探索活動を大切に

いろいろな場所へ行き、身のまわりのものに触れる中で、好奇心が芽生えていく。探索活動は発達していく上でとても大切なことで、子どもたちが安心して探索活動を楽しめるよう、環境づくり、言葉かけをしていきたいと考えている。

○気持ちに寄り添う援助

保育者がそばで見守り、言葉かけをしていったことで、A児は笑顔になった。保育者と“おもしろい”という気持ちを共感しながら、さらに繰り返し楽しんでいった。保育者のかかわりや環境づくりは、好奇心をもって遊びが続いていく上でとても重要であると考え、一人ひとりの気持ちに寄り添う援助を心がけている。



ポイント

カップの水をこぼすことを毎日のように繰り返し楽しんでいる子どもの遊びに、保育者が寄り添い、「なーい」という子どもの言葉を受け止めて、共感する援助をしています。水が染み込む現象を繰り返し見守ることから、水がなくなること不思議を感じて興味をもっていることがわかります。一緒に同じものを見つめて声をかける保育者の言葉から、「なくなった」という言葉が引き出され、更に意欲的に何度も繰り返す姿に結びつくことにより、科学する心の育ちが期待されます。